

2022.2.14

お知らせ&お願い 2：2/19 第 30 回働学研（博論・本づくり）研究会

十名 直喜

春の訪れは、光から。寒中に差す日の光が、日ごとにまぶしさを増すこの頃、如何お過ごしでしょうか。

1/22 第 29 回働学研は、2022 年の幕開けにふさわしい研究会となりました。参加者 26 人のご参加を得て、興味深い 5 本の発表をもとに議論も盛り上がりました。いただいた多くの知恵と示唆は、光となって、働学研に差し込んでいます。

2 月に入り、月日の過ぎるスピードもアップし、2/19 第 30 回働学研も近づいています。

2 月の働学研は、5 本の研究発表、2 部編成のプログラムになっています。

第 1 部 仕事と地域への 21 世紀的まなざし

第 2 部 家族・労働・経営への歴史的視座

司会は、第 1 部：濱さん、第 2 部：太田さん、にお願いしています。

働学研の原点に立ち返り、発表&議論を楽しむように心がけてと思います。

2/19 第 30 回働学研プログラム

（司会：太田・濱・十名、画面：澤 & 発表・議論各 15～20 分：計 35 分/本）

第 1 部 仕事と地域への 21 世紀的まなざし（司会：濱 14:00～15:10）

井本 明：「21 世紀は「しまね」だよ ―健康で文化的な「最低以上」の生活」

田中興念子：「自らの生活と仕事を研究対象とすること

―『サステナビリティの経営哲学』考察」

第 2 部 家族・労働・経営への歴史的視座（司会：太田 15:10～17:00）

横田 幸子：「出版企画 横田幸子著『人類進化の傷跡とジェンダーバイアス』」

堀 隆一：「上杉鷹山の勤勉・勤労思想」

三輪 昭子：「CSR 概念の多様性と史的展開（続）」

なお、発表資料フォルダも整え、発表資料 5 本の内、4 本を収めています。残り 1 本（田中）は届き次第、入れておきます。期間限定の開示となりますので、早めにご覧ください。

参加のお知らせをいただいているのは、下記の 15 名です。

（敬称略：井本、岩田、太田、小野、片山、聴涛、岸本、澤、田中、中谷、濱、堀、三輪、横田、十名）

皆様のご参加、お待ちしております。ご参加の方は、十名（tona@iris.eonet.ne.jp）まで

お知らせください。くれぐれもお大事に。

<付記>

付1 働学研の原点に立ち返り、発表&議論を楽しむ

月例会の進め方についても、さらなる改善を図るべく、働学研の原点に立ち返り、ワイガヤを楽しみ大切にするようにしたいと思います。

働学研の原点は、日常の生活や仕事の中で感じる Why、What、How を持ち寄り議論することにあります。メモ、本の感想・書評、途中の草稿、刊行論文など、A4 で1枚も含め、いずれも OK。

ブレインストーミングが基本で、自由に意見やアイデアを出し合い発想を膨らましていく。発表の資料と思いに対して、こうしたらもっと良くなるという提案を大事にし、頭からの批判は慎む。こうした点を、より明確に示したいと思います。

なお、岸本正美さんから、横田発表にたいする興味深いエールが送られていますので、紹介させていただきます。。

付2 岸本正美 2022.2.10:「横田さんの発表に注目」

コロナ禍と厳しい寒さにまいり気味です。逆に、家で過ごす日が多くなりますので、読書や小論を走り書きチャンスでもあります。

2月19日(土曜日)14時からの「働学研」にも出られそうです。URLは、十名先生から送って貰える筈です。

僕は、今回は横田先生の長大な研究報告「人類進化の傷跡とジェンダーバイアス」に注目したいです。

「研究者」として、横田先生から多くを学べるものと考えています。きっと、以下の内容も含まれているものと推察しますが、「研究ノート」のひとつとして残しておきたいと考えますので、皆さまとも共有できれば、無有難いです。

使った著書は、「世界の歴史1」(中央公論社 1998年出版)です。最新の研究からすれば、この本は「古典派考古学」になっているかも知れません。著者は、敬称略で大貫良夫・前川和也・渡辺和子・尾形貞亮の各氏です。どうも当時は、東大の井尻先生達のグループだったのかも知れません。

注目した主張は、P. 14「オランダの解剖学者ヴジェーヌ・デューボア... ジャワ島中央部のソロ川のほとりにあるトリニールという場所で、古いヒトの頭骨の化石を見つけた...」

P. 56には、「中石器・新石器時代 石器時代のヨーロッパや(シチリア島周辺には)『カルティア文化』が広がり...」等と欧州の研究者が自国や「大航海時代」に切り開かれた地域の考古学的が盛んに行われたことを物語っています。

ユーラシア大陸や北アメリカ大陸での研究は、もっと後になったものと推察します。

僕は、以前より「氷河時代と人類進化」を数年前からシャピロ先生より調べる必要を

教示いただきました。そこで、以下のような事項に注目もし始めてきた次第です。

長い氷河期と間氷期の繰り返しの中で著しい人類の進化がありました。

- ① 氷河期が人類に及ぼしたマイナス面 「飢餓状態」→人口減 危機の進行
- ② 反面、火の使用（発見）・道具の使用・水の利用・集団的狩猟の発達・社会性の発達・石器・初期土器の発明・信仰の広がり・部族社会の形成

これ等の照明は、化石や遺跡からの発掘が主要な方法ですが、そちらの資料は、手元には不十分です。今後、発掘していきたいです。

横田先生なら、そういう資料もお持ちかもしれません。19 日を楽しみにしています。

皆様方も、可能でしたら、お覗き願います。